

令和5年度 防災ワークショップ 実施報告書

◆防災ワークショップの概要(R6.3.24開催)

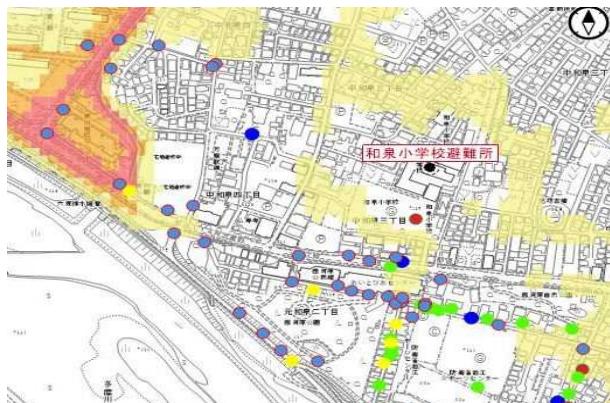
	日時	場所	参加者数
午前の部	10:00~12:00	南部地域センター 多目的ホール	7名
午後の部	14:30~16:30	あいとぴあセンター 4階講座室	5名

1. 「前回までのワークショップの振り返り」

専修大学人間科学部の教授である大矢根淳先生に、前回までのワークショップの振り返りとして、防災に関する地域の役割と昔からの知恵、まち歩きをする上での観点についてご講演いただきました。

2. 「GISシステムを活用したまち歩き」

市のGISシステム「PasCAL for Mobile」のシステムを活用し、1人1台のタブレットを持ってまち歩きをしていただきました。防災上で気になる場所をその場でタブレットを用いて地図上にプロットし、会場に戻って収集したデータをハザードマップ等と重ねて分析した結果を班ごとに発表していただきました。



◆ワークショップのアンケート結果

設問 1	大矢根先生の講演に関して感想をお聞かせください。また先生への質問がありましたらご記入ください。		
回答	とてもよかった	5	○町会要のハザードマップを作っているが、参考になった ○共助のお話がさきりました。 ○具体的な事例が聞けた ○新しい気づきがあった ○防災という事を身近に考える機会があってよかった
	良かった	7	
	どちらでもない	0	
	悪かった	0	
	とても悪かった	0	
	無回答	0	
設問 2	ワークショップに参加した感想をお聞かせください。		
回答	とてもよかった	4	○GISの取扱い全くできなかったの、後日、練習が必要だと思った ○新しいシステムの導入は難しい ○特にタブレット活用で危険箇所をインプット、写真、メモ等が入れられて便利なツールと思った ○多くの意見が聞けた、言えた ○情報システム勉強になった ○常に考えないといけないことと思うので、継続的にこういうワークショップを開催してほしい
	良かった	6	
	どちらでもない	1	
	悪かった	0	
	とても悪かった	0	
	無回答	1	
設問 3	ワークショップに参加して改めて感じた防災の課題はありますか。		
回答	○自助はできるが共助が難しいと感じた。ポロ公園に防火水槽、土のうがあって安心したが、土のうは重たくて持ち上げられなかった		
	○日頃、防災のことを考えて行動することが大事だということに気づいた		
	○避難について、その時に出来るか心配になった 在宅避難するか、しないかの判断基準、判断のより所が分からない		
	○地域の関係性を高めることの重要だと感じた。そのためには情報提供の充実が必要		
	○都市計画の話、防災の話、福祉の話など幅広い講義が必要		
設問 4	地域の防災課題を解決するためには今後どのようなことが必要だと思いますか。		
自由記述	○もっと多くの人が関心をもってもらうことが必要		
	○各地域の住民同士の普段の交流が重要であると感じた。		
	○災害時にできるだけ早く情報を得る手段が必要		
	○都市計画の話、防災の話、福祉の話など幅広い講義が必要		
	○町会の活動などを地道に続けることが必要		
	○近くの人たちに共に考えることができれば良いと思う		